

がんゲノム医療紹介

徳大病院でフォーラム

徳島大学病院がん診療連携センターは16日、がん治療の取り組みについて発表するフォーラムを徳島市の同病院で開き、医師や看護師7人が講演した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため無観客で実施され、フォーラムの様子は3月18日以降、ケーブルテレビ徳島で放送される。

消化器内科の藤野泰輝医師は、患者の遺伝子情報を活用する「がんゲノム医療」を紹介。一度に大量の遺伝子情報を調べられる「パネル検査」で異常を特定すれば、10人に1人程度は有効な治療薬に結び付けられる可能性があると言明した。

整形外科の土岐俊一医師は、AYA(思春期・若年成人)世代は脳腫瘍や骨肉腫などの希少がんが多いと指摘。的確な医療を行うため「さまざまな診療科の関係者が参加するチーム体制づくりが重要」と述べた。

(青木忍)

3月21日付の特集面で詳細を掲載します。



徳島大学病院のがん治療の取り組みについて紹介する土岐医師—徳島市の同病院